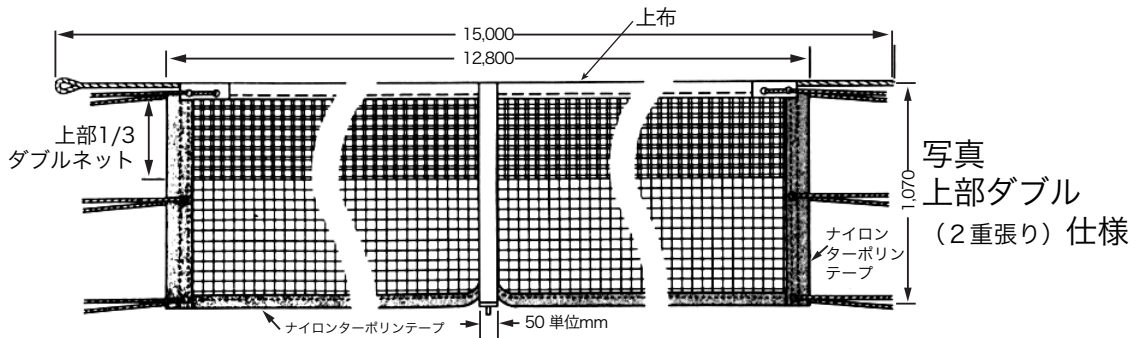


硬式テニスネット-1



テニスネットの捕捉説明

テニスネットの使用目的

次の項目の内、その用途を明確にして下さい。

- 1 硬式テニス専用** ～センターストラップ、ストラップ埋め金具、(要シングルスティック)
高強度のネット紐で編まれていること
- 2 軟式&硬式テニス兼用** ～上記と同条件、硬式規格に準ずれば耐久性も期待できます。
- 3 軟式テニス専用** ～センターストラップ、ストラップ埋め金具は不要。強度もそれほど必要としません

テニスネットの取り付け状況

次の内、その取り付け状況を明確に把握して下さい。

- 1 テニス支柱についているネット巻き器の種類**～a 巻き器が外付け露出のタイプか
硬式用ウオームアップギア式か
軟式用の引っかけ式か//硬式不可
b 巻き器が支柱の中に内蔵されているタイプか
～ワイヤ長さを測定、かつ両端をフック加工

重要!

- 2 支柱間の距離**～正規のコート寸法に対し、適切な位置に埋められているか

ダブルスコートのサイドラインの間隔は10.97mです。
テニス支柱の距離は、サイドラインから0.914m外側のはずです。
それに対し、ネットワイヤーの長さは15m～14.3mです。
内蔵タイプの支柱の場合、支柱の間隔は12.8m±10cmです
～原寸を確認いただきませんと長さが余りすぎ、又は不足する事があります。

テニスネットの選び方 下記の基準でお選び下さい。

1 ネットワイヤーの素材

- a テクノーラ** ～アラミド繊維。超高耐久、さびない、切れない、丈夫で軽い!
- b ステンレス** ～高耐久、さびない、丈夫です。
- c ダイネマ**
(ポリエチレン系) ～軽い、柔らかくさびない。切れにくい。伸び縮み少なく、スチールのようにささくることが全くないから、取り外しが多い場合も安全、但し、使用状況によりスチールよりもたない?支柱の滑車によってはもたない
- d スチール** ～重く、さびる。切断の可能性有り。取り外しの時にささくれで怪我をする例がある。

2 ネットの素材

- a ナイロン** ～性能はポリエステルに酷似。染色性に優れる。伸び易いが、耐候性に優れ、破断強力すごく高い。一番のお奨め
- b ポリエステル** ～反発性無く、比重が重いことと単糸の細い関係で摩擦に弱いため、高尺の防球ネットには不適切。吸水性なし。伸びにくく破断強力高い。
- c ポリエチレン** ～吸水性無く、汚れの付着防止、やや伸びやすい。破断強力高いが、耐候性やや劣る。比重軽く、しかもコストパフォーマンス抜群。防球ネットに
- d ビニロン** ～従来の主力素材。耐候性、摩擦強度に優れるが、吸水性が高く、水分による伸縮硬化を起こす性質があるため、使用場所を限定される。伸び率やや高い。